



うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

推進技術	目標	チェック
1~7	1. 播種量 (うす播きの励行) 2. 育苗日数 (健苗の育成) 3. 植付本数 (細植えの励行) 4. 栽植密度 (優良茎の確保) 5. 適正な施肥 (栄養凋落防止と登熟向上) 6. 田植え時期 (早植えの防止) 7. 中干し・溝切り	
8	<b>除草・防除</b> (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	・7月上旬までの追加除草 ・水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施
9	<b>水管理</b> (飽水管理の徹底)	・中干し後から出穂までの約 <b>1か月</b> (コシヒカリ) の飽水管理 ・出穂から刈取り直前までの <b>1か月以上</b> の飽水管理
10	<b>刈取時期</b> (適期刈取りの励行)	・籾の黄化程度に応じた刈取り

水稻の生育は平年に比べてゆめみづほで4日、コシヒカリで6日程度早まっています。  
生育状況 (管内生育観測田平均、7月19日調査)

ゆめみづほ								
草丈 (cm)			茎数 (本/株)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )		
本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
91	86	83	27	33	31	507	543	503

コシヒカリ								
草丈 (cm)			茎数 (本/株)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )		
本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
90	81	84	21	21	22	359	385	419

- ◎ゆめみづほの出穂期は平坦部で7月13日頃、山間地帯で7月15日頃 (平年より4日早い)
- ◎コシヒカリの出穂期は平坦部で7月24日頃、山間地帯で7月26日頃 (平年より6日早い)

**7月27日のカメムシ調査では、飛翔性カメムシを中心にカメムシ類の水田侵入が多く、地点で確認されました。斑点米による落等の危険性がありますので、出穂後の防除を徹底しましょう。**

## 石川かほく環境にやさしい農業のすすめ ~粒剤によるカメムシ防除~

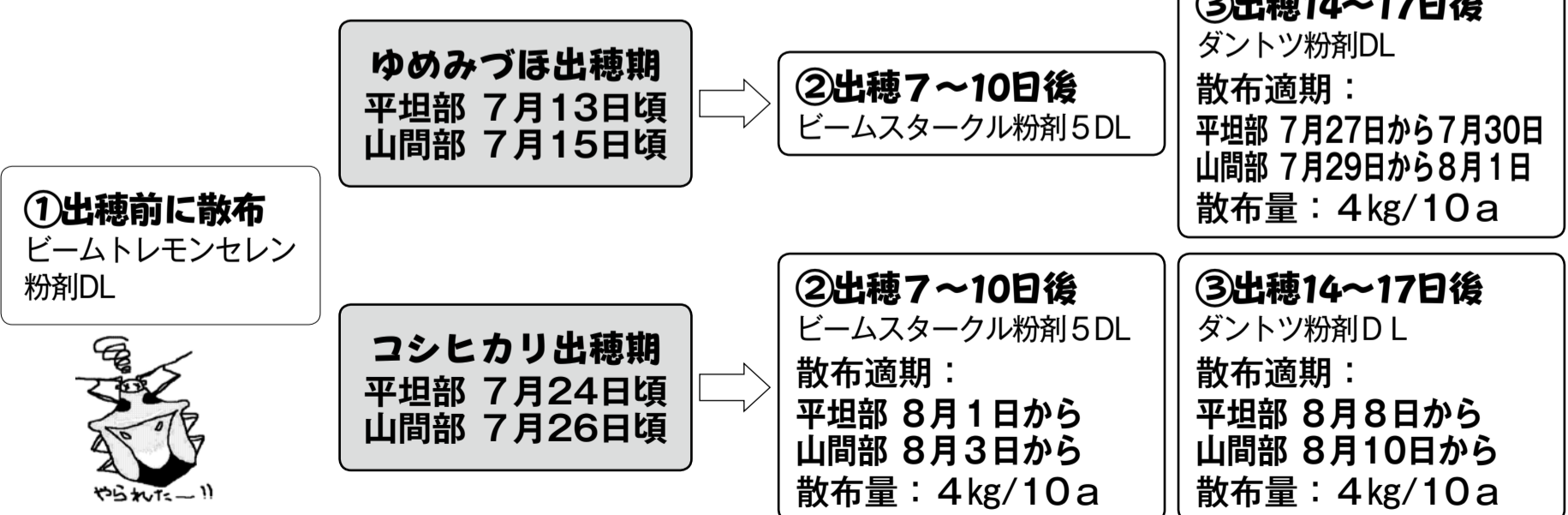
飛散の少ない粒剤での省力散布をおすすめします。

### キラップ粒剤 カメムシ類、ウンカ類

散布適期：出穂直後～5日後 (コシヒカリではただちに散布) 散布量：3kg/10a (湛水状態で散布)

- ※イモチエースキラップ粒剤を散布した場合は散布する必要ありません。
- ※散布後15日以上経過しないと収穫できません。

### 粉剤によるカメムシ防除



- ※ビームスタークル粉剤5DL及びダントツ粉剤DLは、散布後8日以上経過しないと収穫できません。
- ※散布にあたっては強風の日を避け、飛散しないように注意してください。

裏面に続きます

薬剤の使用基準を守って安心な

かほく米づくり

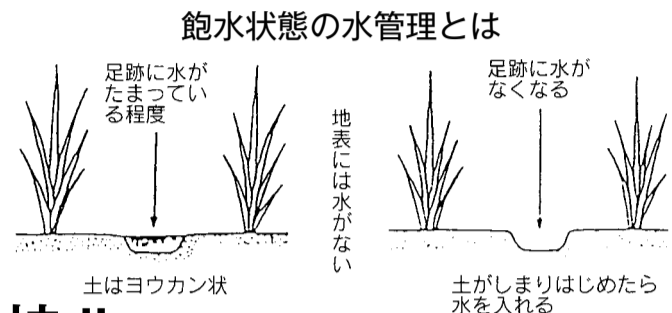
病害虫防除後に栽培履歴へ記入しよう!

# 乳白粒・胴割粒の発生に注意!!

- 土壌の水分不足や、出穂期～出穂20日後の高温（日平均気温27℃以上）により、乳白粒・胴割粒が発生しやすくなります。
- 8月は高温と予想されており、乳白粒・胴割粒の発生が心配されます。



## 乳白粒・胴割粒発生防止 ～最後の決め手は水管理～



- **3～4日ごとの通水で根の活力を維持!!**  
=常に田面が濡れている状態を維持
- 通水は夕方に行い、刈り取り前5日頃まで継続する。
- フェーンには要注意：フェーンの予報がでたら通水、湛水して備える。
- 日中の常時湛水は厳禁：根が傷んで乳白粒、胴割粒の発生を助長する。

## 斑点米カメムシ類の多発に注意!!

7月14日付で、斑点米カメムシ類の多発注意報が発令されています。すでに出穂した本田への侵入が確認されています。コシヒカリの出穂も早まっているため、斑点米発生危険性が高まっています。出穂後の防除を徹底してください。

【飛翔性カメムシ類】



アカヒゲホソドリカスミカメ  
(体長 5～6.5mm)



アカスジカスミカメ  
(体長 4.6～6mm)

【歩行性カメムシ類】



トゲシラホシカメムシ  
(体長 5～7mm)

### JA石川かほく米555共励会 今月のポイント

- 根の活力を維持するため、間断通水を継続し、乳白粒・胴割粒の発生を防止して、品質向上
- 基幹防除を確実に実施し、斑点米の発生を防止して、品質向上

※イノシシの被害が見られた場合は、JAもしくは農業共済(239-2555)までご連絡下さい。  
※ゆめみづほの刈取適期は8月10日(水)以降の新聞にて発表いたします(予定)。